

技友会だより 2015 春号

技友会

検索

東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校
同窓会“技友会”広報編集部
〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45
東京医科歯科大学2号館2階口腔保健工学専攻内
TEL 03(5803)5780
E-mail info@gyuu-kai.com

平成27年度技友会総会開催のお知らせ

平成27年度技友会総会の詳細が下記の通り決定しました。

総会閉会後に開催される学術講演会では工学専攻最初の卒業生、1期生5名による卒業研究・卒業作品プレゼンテーションが行われます。また、今年度の懇親会はM&Dタワー26階「ファカルティラウンジ」で開催できることになりました。技友会に工学専攻1期生が加わる記念すべき年、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

◆総会◆

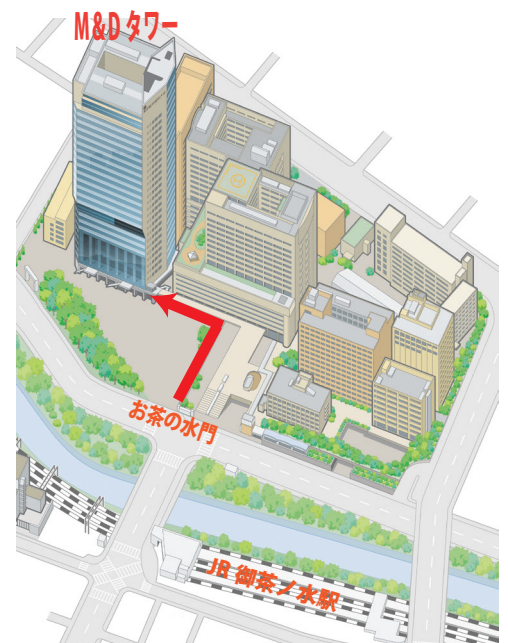
日時：平成27年3月21日（土）13:00～14:30
場所：東京医科歯科大学2号館3階修士課程講義室

◆学術講演会◆

日時：平成27年3月21日（土）15:00～16:30
場所：東京医科歯科大学2号館3階修士課程講義室

◆懇親会◆

日時：平成27年3月21日（土）17:00～19:00
場所：東京医科歯科大学M&Dタワー26階
ファカルティラウンジ



技友会選挙管理委員会からのお知らせ

技友会役員および評議員の任期満了に伴い、選挙を実施する予定でしたが、平成27年2月19日の立候補締切日の時点で、会長に山下勘二氏（本27）、理事に三好博文氏（本16）の2名のみでした。そのため、両氏の無投票による再選となったことをご報告いたします。

技友会選挙管理委員会 委員長 瀬古憲一郎（本11）

アウトドア同好会からのお知らせ

日時：平成27年4月29日（水・祝日）9:30 *雨天中止
行程：埼玉県寄居町の寄居駅集合後、鐘撞堂山への登り1時間20分、全行程3時間程度のハイキングを実施

参加費：無料（現地までの交通費、昼食代はご負担ください）

申込先：高柳敦（本35）

E-mail takayanagi222@yahoo.co.jp TEL 04-7174-7481

申込締切：4月28日（火）

工学専攻 1 期生

卒業研究・卒業作品プレゼンテーション

日 時：平成 27 年 3 月 21 日（土） 15:00～16:30

場 所：東京医科歯科大学 2 号館 3 階修士課程講義室

参加費：無料（会員以外の方も参加できます）

研究テーマ 陶材の厚みとオパーク色の効果

五十畑 美稀



【目的】陶材焼付金属冠は十分な強度と審美性を保持しているが、臨床では十分な築盛量を確保できない場合もある。そこで今回は、オパークとデンティン陶材の厚さを変化させた場合の色調の変化を調べ、これら陶材の厚みが色調に与える変化を検討した。

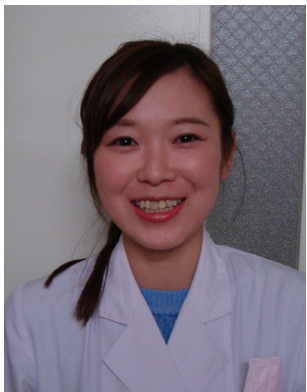
【材料および方法】焼付用陶材には 2 種類の A2 のオパークとデンティン陶材を用い、焼付用金属にはコバルトクロム合金、測色には分光式測色色差計を用いた。

【結果】オパーク陶材の厚みが増すと AAA では L^* 、 a^* 、 b^* の値は増加傾向を示し、ヴィンテージ MP ではオパーク陶材の厚みが 0.3 mm のときに L^* 、 a^* 、 b^* の値が最大となった。デンティン陶材の厚みが増すと両陶材とも L^* の値は低下し、 a^* 、 b^* は増加傾向を示した。

AAA の場合、オパーク陶材が 0.1 mm、デンティン陶材が 0.9 mm のときに、ヴィンテージ MP ではオパーク陶材が 0.1 mm、デンティン陶材が 1.2 mm の厚さの場合にシェードガイドとの差が最も少なくなった。

研究テーマ 動物における歯科治療の実態と歯科補綴装置のニーズに関する調査

中嶋 優子



【目的】近年、日本では約 3 人に 1 人がペットを飼っているとされ、動物歯科への関心やニーズも高まってきている。しかし、動物歯科治療の実際や歯科技工士の関わりについては報告がない。本研究では、動物歯科治療の実態を把握し、動物歯科治療における歯科技工士の役割と獣医師との協力体制について検討することを目的とした。

【方法】大学病院、関東地方の動物病院、日本動物園水族館協会所属の動物園、日本動物病院会主催口腔病セミナー参加者を対象とし、自記式質問票による調査を 2014 年 6 ～ 9 月に実施した。

【結果および考察】回収率は 51% であった。回答者の 94% が動物歯科治療の必要性を認めていたが、実際に歯科治療を実施しているのは 68% であった。また、獣医師間での歯科技工士の認知度が低かった。今後、歯科技工士が歯科補綴治療で協力することは可能であるが、まず認知度を上げる働きかけが必要であることが示唆された。

作品テーマ 外部ステイン法による歯科技工物

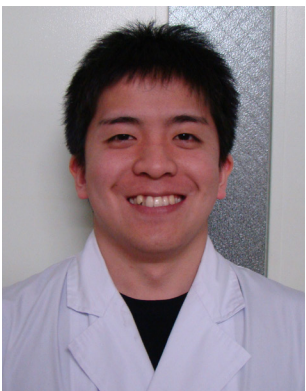
齊藤 道拓



昨今のCAD/CAMシステムの進歩は目まぐるしいものであると感じます。その為我々歯科技工士にとってそれらの知識、技術は必要不可欠なものとなってきています。そこで、本専攻の集大成でもある卒業作品に取り掛かるにあたってのコンセプトを2つ設定しました。1つは本専攻のCAD/CAMシステムなどの充実した設備を活用すること。特に昨年保険収載されたCAD/CAM冠については是非製作してみたいと考えました。2つ目はそれぞれ異なる材料における色調の調和です。今回製作したものは全て外部ステインにより着色しました。結果として材料によって表現できる色合いの違いを感じ、学ぶことができました。まだまだ改善すべき点は多く残っていますが、寛大な心でご覧頂けましたら幸いです。また今回の卒業作品にあたって様々な助言をくださった先生方にこの場をお借りして感謝の意を表したいと思います。

作品テーマ CAD/CAM を用いて作製した歯科技工物と歯根付サンプル

勇崎 圭翔

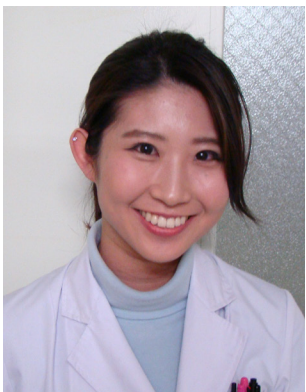


私は技工士学校卒業後、工学専攻に編入学し、基礎的な技術や知識に加え、CAD/CAMシステムなど新しい分野の習得に励んできた。今回、卒業作品にあたり、学んできたことの集大成として工学専攻ならではの様々な設備、材料を用いて作品を製作した。

昨年から注目されている保険適用のCAD/CAM冠をはじめ、オールセラミッククラウン、フルジルコニアクラウン、三次元形状設計ソフトを用いた歯根付サンプルといったデジタル機器を駆使した技工物の作製に挑戦した。従来法では感覚的だった鑄造冠の適合やマージンの調整などが数値で客観的にコントロールでき、仕上がりが均一でエラーが少ないなど、デジタル機器のメリットを感じる一方で操作の難しさを実感した。製作を通してデジタル化による利便性を感じつつも、土台となる技術を習得する重要性を強く感じた。形態など未熟な点は多々あるが、CAD/CAMシステムによる製作物と従来法の物との質感や見え方の違いにも注目して見て頂きたい。

作品テーマ 歯冠内アタッチメントデンチャー

羽田 多麻木



近年のCAD/CAMシステムおよびインプラント治療の普及、金属価格高騰という時流の中、貴金属を多用し、術式が非常に煩雑なアタッチメントデンチャーの需要は減少傾向にあると言われている。しかし、アタッチメントデンチャーは形態・色彩・機能を兼ね備えた審美的補綴装置として応用することで、患者の口腔内を改善し、発音状態をも考慮に入れた修復治療を可能にする。さらに最近では、従来とは異なる主成分のナノジルコニアなどの材料を使用したアタッチメントが臨床応用されている。

そこで、4年間の集大成である卒業作品を製作するにあたり、本学専攻で学んだ知識や技術を最大限に生かしつつ、以前から興味・関心を持ち、今後も材料の主成分を変えつつ進化し続けるであろうアタッチメントデンチャーを製作したいと考えた。

前歯6本は硬質レジン前装冠による連結冠とし、左右第一小白歯に自家製の歯冠内アタッチメントを施したアタッチメントデンチャーを製作した。

第17回制度勉強会開催のお知らせ

2011年より、歯科技工士の制度問題を継続的に勉強する表記勉強会を開催しており、第17回は3月14日に開催します。歯科技工士や本同窓会員に限らず、どなたでも参加できます。お知り合いもお誘いの上、ぜひご参加ください。(代表世話人：関三千男)

日時：2015年3月14日(土) 14:00-17:00

場所：両国シティコア 洋室

東京都墨田区両国二丁目10番11,14号

TEL. 03-5624-1151

JR 総武線「両国駅」下車徒歩3分

大江戸線「両国駅」下車徒歩9分

<http://www.ryogoku-city.co.jp/content/access/>

参加費：200～300円(出席人数によって変動しますが、会場費を徴収させていただきます)

- 話題：1. 歯科技工法の出来るまで—当時の歯科技工事情と背景—(御崎勝雄〔ミサキモダンデンタル〕)
2. 法・言語・暗黙知(八木下滋〔本28〕)
3. 転換を迫られる歯科技工士像—Oxford 大学論文「あと10年で消える職業なくなる仕事」のインパクト—(早川浩生〔実33〕)
4. 寡占化する技工所—売り上げ高の比較—(関三千男〔本14〕)

